

令和4年11月29日

西部農林水産振興センター益田農業部

標 題	「見る」べきは環境だけにあらず。作物、生産者も「見える化」 ～環境モニタリングシステム・環境制御技術活用研修会～
-----	---

(ダイジェスト)

益田管内ではミニトマトを中心にみどりクラウド（環境モニタリングシステム。以下、システム）が稼働しています。有効な活用方法の確立に繋げるため、11月9日に意見交換会をメインとした研修会を実施し、システム及び環境制御技術の基本的な知識の習得と生産者及び関係機関での活用状況の共有を図りました。

管内のシステム導入状況は、益田市11台、津和野町3台、吉賀町2台の計16台です。令和3年度からのスマート普及活動を契機に導入が増える中、週間レポートの活用や生産者自身の生育調査により、収量・品質の向上、省力化、コスト削減及び技術継承等に繋がる活用方法を模索しています。そこで、①システム及び環境制御技術の基本的な知識の習得、②生産者及び関係機関での情報共有を通じた有効な活用方法確立に向けて研修会を開催しました。

★週間レポート★

環境データ、生育調査結果等を一週間単位で集計。前週の振り返りと今週の栽培戦略を立てることに活用。

研修会は株式会社セラクによるオンライン講義から始まり、管内での活用事例紹介、意見交換会、そして炭酸ガス施用・自動巻き上げの現地視察とし、モニタリングから環境制御までの流れをイメージできる構成としました。また、特に意見交換会の時間を長く設定し①よく使う機能、②欲しい機能、③栽培管理の際意識していること、④週間レポートに欲しい情報、⑤観測値を活用した栽培管理の改善、の5つのテーマを設けました。参加者を2グループに分け発言しやすい雰囲気を作ったことにより、地域や品目を越えて活発な意見が飛び交い、生産者の関心の高さがうかがえました。

研修会を通して、「自分で生育調査ができそう」、「他の地域も含めて横の繋がりを構築したい」等の声が聞かれた他、「環境制御を収量・品質向上に繋がりたい」との声が最も多く、今後の普及指導上の課題も明確になりました。

今後は、メリットとコストの検討を行うとともに、自身のハウス環境をモニタリングするだけではなく、作物の生育状況や他の生産者の管理状況も含め情報を統合的に捉えた本当の「見える化」を可能にする場を設けることで、経営の改善に繋がるよう支援を行っていきます。



写真1. 座学



写真2. 意見交換会



写真3. 現地視察